

NPO法人 熊本まちなみトラスト
第32回理事会(190826)出欠表

氏名	理事会 190826 出欠	出席 人数	委任 出席 人数
1 青木勝士	○		
2 麻生田栄壽	○		
3 伊藤重剛	○		
4 磯田桂史	×		
5 磯田節子	×		
6 岡裕二			
7 工藤栄一郎	×		
8 幸田亮一	× 事務局長		
9 西郷正浩	× 理事長		
10 柴田祐			
11 竹田宏司	○		
12 田中尚人			
13 鄭 一止(いるじ)	○		
14 辻 泰明	○		
15 豊永信博	○		
16 長野聖二			
17 西嶋公一			
18 富士川一裕	○		
19 藤本秀子			
20 松波大仁	○		
21 宮野桂輔			
22 宮本茂史			
23 矢野和之	○		
24 山田穰			
25 吉野徹朗			
1 荒木幸介			
2 齊藤修	×		
会員(コア会員)			
1 本田憲之助			
2 森 純子			
3 両角光男	×		
4 上野美恵子			
5 上農淑子			
6 清水照親			
7 坂口秀二			
8 西島衛治			
9 西島真理子			
10 早川祐三			
11 松崎範子			
12 清永泰弘			
13 古賀元也			
14 濱田康成			
15 中田浩毅			
16 東久美子			
17 伊原登志郎			
18 石原靖也			
19 佐々木翔多			
20 反後人美			
21 三國隆昌	○		
22 池田由美			
23 黒瀬商店			
24 田中達俊			
25 原野利一	×		
26 高田真人			

本日の協議事項

報告事項を先行させて以下の項目を可能な範囲で議決

- 1) PS・カーリーノ イベントの進め方
(以下は、相互に関連がありますので一括方針)
- 2) 被連協アンケートの呼びかけ方
- 3) (勧進帳)の企業等への呼びかけ方
- 4) 歴史まちづくり部会の再編
- 5) 組織部会(総務部会)の再編

◆前回(7/22)例会以降の経過

7/31KMT事務局会議【富士川・松波・辻・菊池】
以降8/7、8/21

7/24 被連協清永部会(89回)【磯田桂史・富士川】
以降 8/13(90回)、8/20(91回)

8/1シリアからの研修者対応(東文研招聘)

◆報告事項

1. 8/11明八橋イベント
2. 住友部会(カーリーノ、PSとの企画共有)
3. HC財団交流会in金沢5/25 時後報告
3. (勧進帳)長期目標の練り直し

◆今後の予定

1. 全まち2019in東京 9/7(パネル出展)
2. 三都市シンポ2019in岡山 9/18
3. まちなか工房の移転(9月→10月からびふれす)
4. PS・カーリーノ合同イベント(10月?)
5. 文化財防災セミナー 11/9

【旧住友部会経緯】

協議会は最後7/8(月)→次回は必要に応じて(非定例)

5/18総会シンポジウム@カーリーノ魚屋町ビル で
PS工事竣工後カーリーノと合同イベント提案

7/11同イベントについて第一回会合@PSオランジュリ
カーリーノ田中部長出席かなわす

本資料目次

- P2 前回例会/理事会記録
- P6 8/11 On the明八橋イベント記録
- P11 荒木精之記念文化功労者推薦書

理事 10 (+委任状出席=>理事総数25)
会員 1
合計出席者 11
プラス事務局員1= 人(予定)

NPO法人熊本まちなみトラスト 例会／第31回理事会議事録

- 日 時 2019 年 7 月 22 日(月)18:30～20:30
- 場 所 熊本大学まちなか工房
- 参加者 理事 13 人(委任出席を含まず)、会員 2、事務局員 1人 計 16 人
委任状出席＝3を加えた理事出席者数 16 人(理事総数 25 人中)

【報告事項】

- (1)事務局会議
- (2)清永部会
- (3)住友部会
- ①市とカーリーノの間での具体的な動きはないが、都市整備景観課は 3 条運用先進自治体を視察するなどし、条例制定の準備をされている
- ②PS カーリーノ合同イベントは 10 月が望ましいが、10 月からラグビーW 杯が始まる
- (4)認定 NPO に向けた取り組み
- ①熊本市担当課に相談 当団体の計算例もお示しいただき真剣にアドバイスをしていた
- ②「公益性」と「文化財」がポイント
- (5)復興イベント
- ①明八橋イベントは新町古町の地元団体に呼びかけを続けている
- ②PS カーリーノイベントは前掲
- (6)事務局からの報告
- ①火の国会議(震災後ボランティア団体の連絡協議会)への参加
- ②被連協アンケートの準備 前回理事会でアンケート票説明・・・その後動いていない
- ③定期刊行物:第1号の編集進めている／9月、3月発行予定
- (7)その他(行事予定)
- ①山鹿建築士会 文化財復旧復興視察 7/27(土)
- ②シリアからの文化財復旧復興視察 8/1(木) 東京文化財研究所が招聘(矢野理事から)
- ③産業遺産研究会総会 8/3 14:00 辻理事講演
- ④聖心女子大 先生と学生 文化財復旧復興視察 8/11(日)
- ⑤宇城市観光協会との共催「サンカクドライブ」恒常化
- ⑥西港ファンクラブお掃除会 8/25
- ⑦肥後五か町(まち)シンポジウム《基調講演:永青文庫今村准教授》10/26(竹田理事)
- ⑧熊本市博「甲斐青ビヨウと熊本の街」講演と待ち歩き 10/26(伊藤理事長、富士川理事)
- ⑨日本都市計画家協会から出前講座の共催依頼(別紙)
- ⑩2020-03-7、8 日 日本建築学会九州支部大会が熊本大学で開催 日韓シンポも

【審議事項】

1. 企業・市民への呼びかけ文書（説明：事務局・富士川）

ー総会決議を受けた財政基盤の強化に向けてー

(1) 総論

- ①(事務局)人件費の捻出が難しく休眠状態に陥る団体は多い
- ②ナショナルトラストのような団体のイメージではまずいのか
(そのへんはこれまでにだいぶ議論したはず)
- ③今問題にしていることは、我々が死に絶えた後(リタイアした後)も熊本まちなみトラストが存続する(組織の持続可能性)ために今何をやるべきか、ということ
- ④「公益性」を強く打ち出すことが肝要

(2) 入会のお願い

- ①P2～P4(と年表・写真)は「資料」として議論の余地はあるが・・・
- ②維持会員として年会費 5 万、10 万出して下さい、という「入会のお願い」書が必要
- ③お金を出す値打ちがありますよ、というバックデータが P2～P4(と年表・写真)か

(3) P3 今後の活動、方向づけ

- ①金沢や倉敷と違い、企業が文化にお金を出すという風土が弱い
- ②「城下町の活性化」を打ち出す
- ③新町古町は市民全体の財産だからお金を出してもらいたい、という訴え

(4) 100 年企業 という発想

- ①トラストの会員、会友には 100 年以上続く企業がある
亀井通産、清永本店、吉田松花堂、長崎次郎書店、野田市兵衛商店・・・
- ②企業の持続可能性をお手伝いする、という切り口はどうか
- ③持続可能性をお手伝いする、というよりは長寿企業の顕彰か
- ④顕彰することが、持続可能性をお手伝いする、につながる
- ⑤「続く 100 年の為に～PS オランジュリイは 2019 年、100 周年を迎えます。～」という復旧
工事中の掲出サインには大いに勇気付けられた
- ⑥このへんのところ、(地元企業史に詳しい)幸田理事、工藤理事の知恵を借りよう

(5) P4 活動目標

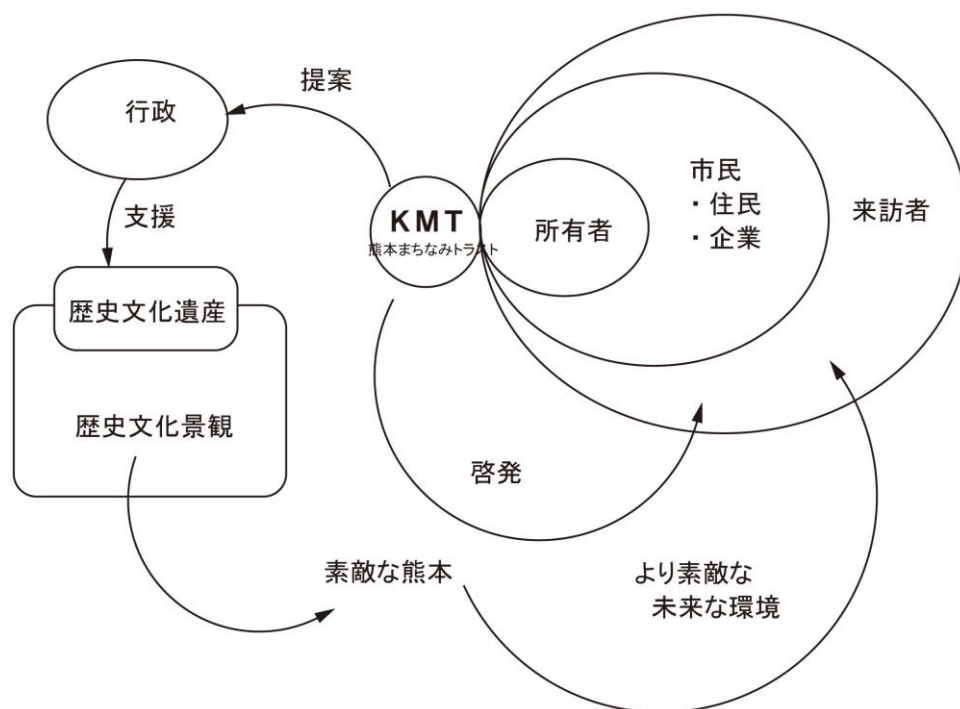
- ①「震災」に引っ張られすぎ
- ②未来遺産、ビンテージビルという不動産価値を高めるための活動、という切り口も
- ③会社や企業をメインターゲットに置いた書きぶり
- ④具体的なターゲットにあらかじめ少しあたってみてはどうか

(6) P4 活動目標の図代替案(青木理事)

(5) P4 活動目標の図(青木理事の代替案)

- ①熊本まちなみトラストが活動することで「より素敵な熊本」が実現しますよというイメージが欲しい

②原案は循環しないが・・・ →スパイラルに進化するイメージにしたい



2. 今年度活動と部会再編

審議時間 15 分

- ①アーカイブ班の対象は建物のアーカイブと活動のアーカイブがあるが、建物の実測調査などにも取組みたい(みんなで出かけていって調査する、とか)
- ②県大 GP では、デザインコードを探し出す作業を進めているが、ビフォーアフターの図面が欲しい
- ③財務組織強化と広報は大きくりで例えば総務部会でいいのでは→その中に 1) 財務、2) 組織、3) 広報 がある
- ④一番下に「事務局」を入れる

次回例会／理事会 予定

2019(令和元)年 8 月 26 日(月) 18:30 於:熊本大学まちなか工房

審議事項1. 企業への呼びかけ文書 議事録補追

100 年持続可能な企業を育てる

- ①震災で未指定文化財のレスキューに携わるという経験から、建物オーナーのファミリーヒストリーに接する機会を得た
- ②建物の持続可能性を高めることと企業活動の持続可能性を高めることは相互関係がある
- ③PS オランジュリの修復工事現場に高く掲げられた「続く 100 年の為に」は説得力アリ



- ④城下町の火を消さないという景観保全の活動は、結果的に熊本の企業を強くすることに貢献できるのではないかと

熊本地震復興イベント『納涼カフェと子ども夕市 on the 明八橋』 実施総括記録／写真抜

主催：NPO法人熊本まちなみトラスト(HC 財団支援事業)

共催：一新まちづくりの会／くまもと新町古町復興プロジェクト

後援：一新校区自治協議会・五福校区自治協議会

日時：2019(平成 31)年 8 月 11 日(日)17:00～19:30

場所：熊本市中央区明八橋付近

当日の気候：曇り(時々日差し)／最高気温 35.9℃／最低気温 25.2℃

1. 事前準備

(1) 広報

- ①チラシの企画・製作発注：7 月 23 日原案作成、7 月 24 日発注
- ②チラシの印刷・納品：7 月 28 日印刷発注、7 月 31 日 1,500 枚納品、8 月 2 日 3,000 枚追加納品
- ③新聞折込：一新校区 1,990 枚、五福校区 1,250 枚 8 月 5 日販売店に持ち込み、8 月 7 日朝刊折込
※前回は両校区の PTA を通して配布したが夏休みのために叶わず／公民館やコミセン等には配布
- ④HP、フェイスブックでの告知
- ⑤報道機関への周知：8 月 4 日新聞 TV 等 12 社に press release を配信

(2) 道路使用許可

- ①道路占用許可 熊本市(西部土木センター) 7 月 29 日申請同日許可
- ②道路使用許可 熊本南警察署 7 月 29 日申請同 30 日許可

(3) 前日(8 月 10 日)準備

- ①子ども遊びの道具等を事前搬入(出田眼科病院様に場所提供でご協力いただいた)
- ②納涼カフェのうち(二葉食品から)ラムネ 6 ケースを事前搬入(同上)

2. 会場準備 (8 月 11 日) 15:00～17:00 (コアスタッフは午前から行動)

(1) スタッフ集合 15:00、会場設営

- ①テント設営新町側：一新まちづくりの会・橋本さん
- ②テント設営古町側：くまもと新町古町復興プロジェクト・上村さん
- ③椅子机の搬入
机・椅子は早川倉庫から借用
トラック：黒瀬潔さん＋熊本・県大学生(トラスト松波)
※椅子が不足したので、新町・宮本建設の機転で折りたたみ椅子をトラックで追加搬入

(2) カフェの受け入れ準備

- ①カフェ 01: 一新まちづくりグループ・カキ氷、甘酒など
- ②カフェ 02: 熊本まちなみトラスト(松波+学生)
川上酒店からクーラーボックス(ビール・ジュース等)、源さんから氷(バケツ2)
氷不足のため板氷をコンビニから買って追加
- ③カフェ 03: コーヒーギャラリー

(3) 子ども夕市の受け入れ準備

子ども遊び責任者: トラスト・辻

- ① 同事務所で、ヨーヨーの空気入れ作業、POP 作成 (けっこう時間かかる)
- ② 水槽に水を貼りヨーヨー、スーパーボールを投入(橋の北詰桜の木の下)
- ③ 大鯛どっこい設営(橋の南詰桜の木の下テント)
- ④ 射的の設営(運営もトラスト・青木理事)

(4) 写真パネルの設置 担当: トラスト・磯田

(5) 受付の設営準備

- ① 受付＝お楽しみ券の引換え、販売、その他(担当: トラスト・竹田、豊永、チランデザイン・江崎さん)
POP が用意されておらず、当日担当者の間で少し混乱。
- ② お楽しみ券 1 枚で引換可能な子ども花火セットの配置。(担当: 辻)

3. 会場運営 17:00～19:30

(1) カフェコーナー

- ① 一新カフェのカキ氷人気
- ② 橋の中央に新町と古町の幹部連中が集まり、話がはずんでいた(いい雰囲気)
- ③ 一方で、一般の人がゆっくり座ってお茶されていたのか少し気になった
- ④ トラストカフェは聖心女子大生 4 人と県大 1 年生一人担当(トラスト責任者: 松波・宮野)
- ⑤ トラストカフェの売り上げは ¥21,500 (÷200 円換算で→) 108 杯
- ⑥ 隣のカフェとの競争心で、呼び込みの声もはずんでいた

(2) ヨーヨー釣り・スーパーボール掬い

- ① 県大生 2 人と聖心女子大生 2 人が担当 (トラスト責任者: 辻)
- ② ヨーヨー釣り 45 人、スーパーボール掬い 48 人の合計 93 人・回
- ③ 県大と聖心女子の学生同士の話もはずんでおり、いい雰囲気だった。
- ④ 1 人での複数回利用者が少ないため利用者は伸び悩んだ。

(3) 大鯛どっこい

- ① 熊大生 3 人、学園大 1 年生 1 人が担当(トラスト責任者: 辻)

- ② 大鯛どっこい(ルーレット)を回して出た目の数字合わせくじで、景品をもらえる仕組みにした。
- ③ 特賞景品に「一新カルタ」や肥後こま、花手箱などの郷土玩具を準備し、地域情報を発信した。
- ⑤ 102 人・回が参戦(お楽しみ券回収数)
- ⑥ 最も予算が割かれたゲームであり、年配の方からは「懐かしい」との声が聞かれた。
- ⑦ 特賞景品の「一新カルタ」については紹介用の POP も準備したが今回、当選者はなかった。

(4) 射的

- ① 県大生 4 人が担当(トラスト責任者: 青木)
- ② 青木理事が北岡神社祇園まつり、帯山小・帯西小、五木村のイベントでの実績ある安定した運営
- ③ 77 人・回が参戦(お楽しみ券回収) $(2) + (3) + (4) = 93 + 102 + 77 = 272$ 人 A

(5) 受付・お楽しみ券引換え・販売所

- ① 竹田、豊永、江崎(チラシ編集者)が担当
- ② お楽しみ券の販売売り上げは $\yen 6,050 (\div 50) = 121$ 枚
引換え分(無料券): 183 枚 $121 + 183 = 304$ 枚 B 発券したことになる
A と B で 32 の差? 概ね 300 人・回遊んでくれた

(6) 町屋巡り

- ① 17:30 スタート 案内=富士川 参加者 2 人
- ② 18:00 スタート 案内=富士川 参加者 5 人
- ③ 18:30 スタート 案内=豊永 参加者 1 人
- ※告知が徹底できず参加者少なかった

(7) 子ども花火

- ① 受付でお楽しみ券 1 枚と引き換えに花火セット 1 袋
- ② 着火マン担当: トラスト・三國
- ③ 花火の時間帯までに帰宅している来場客が多く、利用者は少なかった。

4. かたづけ、撤収 19:30-20:00

- ① テント撤収 橋本さん、元三さん(長机等も)
- ② 椅子・机の搬出 黒瀬商店トラック+男子学生
- ③ 川上酒店 クーラーボックス撤収
- ④ むろや、二葉食品返却 トラスト・青木
- ⑤ 射的撤収 トラスト・青木
- ⑥ ゴミ集め
→ ゴミは^{町家案内}すべて黒瀬さんに持ち帰っていただく(感謝)
- ⑦ 学生アルバイト代の支払い

5. 主催・共催団体以外の協力

- ①出田眼科病院(前掲)
- ②会場隣接店・Casa・estilo (電気、水道のご提供／パネルの展示場所の提供)
- ③器季家カフェ(定休日開業、スタッフ休憩所)
- ④角の町屋(オーナー北野様)、清永本店(オーナー清永様)

6. 事後処理

(直後)

- ①余剰景品の回収・保管
ヨーヨー、スーパーボール、花火:辻 / 射的景品(駄菓子):青木
- ②会計速報:富士川
- ③来場者アンケートの集計:富士川

7. 記録 熊本まちなみトラスト:富士川・中田(写真撮影)

8. 報道取材 くまもと経済

=補足(イベントに至る経緯)=

明八橋の上での震災復興イベントは2018年1月28日に続き2回目であった。

第1回の「明八橋の上でおでんを食べよう」という企画は大好評で、新町地区と古町地区をつなぐ明八橋の上で両地区のまちづくりグループが主催するイベントを続けたい、という関係者の強い思いが残った。

そこで、第2回の同種イベントの企画案を熊本まちなみトラストから新町・古町のまちづくり団体に2018年12月21日に提案したのが、今回イベント企画の始まりだった。その後、2019年3月7日にもう一度地元主導で実施できないか(トラストは資金と後方支援)相談し、その後両地区の若手や会長さんとも個別に相談協議したが、当方の力不足で実行委員会を立ち上げることができなかった。

今回は熊本まちなみトラストが先導して実施しようと同事務局不退職の決意で、両地区のまちづくり団体(新町:一新まちづくりの会／古町:復興プロジェクト)会長さんに持ちかけたところ、夏休み期間中は行事が立て込んでいるがお盆前の隙間に実施すべし、ということで開催日(8月11日)を決定した。7月23日(火)夜のことであった。実施まで2週間と4日しかないという緊迫したスケジュールだった。

そのような超短期の準備期間にもかかわらず、実施にこぎつけることができたのは、第一には新町古町という地域の持つ阿吽の呼吸で動ける地域力である。第二には熊本まちなみトラスト事務局と理事の献身的な行動、第三に大学生の動員ができたことである。大学生のみにはアルバイト人件費を支払ったが他の人件費は一切発生させていない。

最後に、明八橋でのイベントとしてあがっていたアイデアを忘れないように列記しておこう。

水鉄砲大会／そうめん流し／第一高校橋上合唱／泉を活用した花火／坪井川舟運の動きとリンクした例えばゴムボートに子どもを乗せる・・・等



金森英子さん



田中かつ美さん



木戸征郎さん



富田豊子さん



下田幸城さん



岩津昭夫さん



若柳寿鳳さん



外村恭子さん



吉村朋月さん



箕輪翠香さん



長谷川宗里さん

県芸術功労者に11氏

県文化懇話会 現役で後進育成

県文化懇話会(村上輝和代表世話人)は9日、第47回県芸術功労者に選んだ11氏を発表した。県内在住で長く芸術活動に携わり、功績を残した個人に毎年贈っている。

9月末に80歳以上で、現在も現役で活動し、後進の育成に努め

ている人が対象。文化懇話会世話人らの推薦を基に、6月の審査会で選んだ。13人が内定したが、2人が病氣などを理由に辞退した。

芸術功労者は今回を含め526人。顕彰式は9月10日、ホテル日航熊本で。

(飛松佐和子)

県芸術功労者と部門は次の通り。(敬称略)＝年齢は9月30日現在

田中かつ美(88)＝本名・カツミ、山都町、文学

▽金森英子(84)、御船町、短歌

▽富田豊子(80)、山鹿市、短歌

▽木戸征郎(80)、熊本市、洋画・版画

▽岩津昭夫(82)、熊本市、洋楽

▽下田幸城(86)、山都町、洋楽

▽外村恭子(85)＝本名・帆足恭子、熊本市、邦楽

▽若柳寿鳳(80)＝本名・福山征子、熊本市、日舞

▽長谷川宗里(84)＝本名・潤子、熊本市、茶道

▽箕輪翠香(80)＝本名・玲子、熊本市、茶道

▽吉村朋月(82)＝本名・明子、湯前町、華道

福島さんは小学生のころから作曲を始め、高校勤務の傍ら市町歌や地域の音頭などを手掛けた。退職後は合唱の指導者として混声合唱組曲「菊池川」の作曲や、鹿本都市合唱連盟(当時)の設立に携わるなど音楽を通じた文化振興に注力した。

荒木精之記念文化功労者は、熊本の文化振興に寄与した故荒木氏を記念し06年に創設。今回を含め40人を顕彰した。顕彰式は9月10日、熊本市中央区のホテル日航熊本である県芸術文化祭前夜祭で行う。(飛松佐和子)

県文化協会



富士川一裕さん



池本翠郊さん



福島崇實さん

荒木精之記念文化功労者 地域文化貢献3氏に

県文化協会(村上輝和会長)は9日、地域文化の振興などに貢献した県内在住者を顕彰する2019年度荒木精之記念文化功労者の3氏を発表した。

受賞者は、都市計画家の富士川一裕さん(68)＝熊本市中央区、華道家の池本翠郊(本名・大原則子)さん(83)＝同市北区、前山鹿市文化協会長の福島崇實さん(87)＝山鹿市。県文化懇話会世話人らの推薦を受け、6月の審査会で選んだ。

富士川さんは都市計画コンサルタントとして1986年に独立

し、熊本の歴史的文化遗产の保全活動に携わってきた。熊本地震で被災した明治期の木造商家・清水本店(同市中央区)や、大正期の洋風建築・旧第一銀行熊本支店(現PSオウニング、同区)の保存修理にも貢献した。

池本さんは7年にわたり、華道の普及発展に務めた。1995年、県内の華道といけばな20流派による合同芸術展の企画運営に参加。県華道協会理事長を務めるなど華道界のリーダーとして、郷土の芸術文化の発展に尽力した。

福島さんは小学生のころから作曲を始め、高校勤務の傍ら市町歌や地域の音頭などを手掛けた。退職後は合唱の指導者として混声合唱組曲「菊池川」の作曲や、鹿本都市合唱連盟(当時)の設立に携わるなど音楽を通じた文化振興に注力した。

荒木精之記念文化功労者は、熊本の文化振興に寄与した故荒木氏を記念し06年に創設。今回を含め40人を顕彰した。顕彰式は9月10日、熊本市中央区のホテル日航熊本である県芸術文化祭前夜祭で行う。(飛松佐和子)

令和元年度 荒木精之記念文化功労者推薦書

推薦者氏名	伊 藤 重 剛
住 所	〒861-8005 Tel 096-339-4722 熊本市北区龍田陳内 3-20-80

ふりがな	ふじかわ かずひろ
候補者氏名	富士川 一裕 昭和26年3月24日生（満68歳）
住所	〒860-0000 熊本市中央区京町 1-8-24 Tel 096-326-6611

業績の概要

熊本における草分けの民間都市計画家

富士川一裕氏は都市計画専門家として、熊本に民間の事務所を立ち上げた草分けである。業務としては、県下各市町村などの中長期の将来計画策定や、まちづくりの提案、そのための基礎調査などを行なってきた。

しかし会社の業務とは別に、建築の専門家や一般市民を巻き込んだまちづくり活動の仕掛け役として、「古町研究会」、「熊本まちなみトラスト」を自分自身で立ち上げ、以来主宰者あるいは事務局長として毎月1回の研究会を35年間継続し、実際に眼に見える形でその業績を残し、大きな社会的貢献をなした。

熊本の近代化遺産の保存・利活用の活動

氏の功績の第一は、熊本の明治以降の建築文化遺産の顕彰と保存利活用の活動である。例えば熊本市古町で保存が成ったPSオランジュリ（旧第一銀行熊本支店）、旧住友銀行熊本支店は、トラストの活動の結果以外の何者でもない。またトラストは熊本産業遺産研究会との共著で「熊本の近代化遺産」（2013年）を出版し、熊日出版文化賞を受賞している。これらの活動の中心人物として、富士川氏は常にリーダーを務めてきた。

熊本のまちづくりの活動

その第二は、熊本の旧城下町の新町古町を中心としたまちづくりの活動である。氏の企画による研究会、見学会、シンポジウム、署名運動など様々な啓発活動は数知れず、熊本のまちづくりへの優れた提言や提案は、県市の都市行政にも大きな影響を与えてきた。また2016年の熊本地震で被災した同地区の復興に対する氏の献身的努力は、清永本店やPSオランジュリなどへの、アメリカの財団からの支援をも誘い、取り壊しの可能性もあった同建物の保存につながり、大きな社会貢献を果たし、被災者からも大きな感謝を得ている。

推薦理由

以上述べたように、富士川氏の熊本のまちづくりに対する1986年からこれまでの35年の継続的活動の功績は、誠に顕著というほかない。これは40年にわたる「日本談義」の出版を通じて、熊本及び日本の歴史と伝統を継承し、将来に伝えていこうとした荒木精之の溢れる情熱と強い郷土愛に、相通ずるものがある。その意味で、富士川氏のこれまでの熊本の建築文化とまちづくりにおける精力的な活動とその顕著な業績は、自身の功績を誇らない立派な人格を含め、荒木精之の賞に充分値するものとして推薦する。

略歴	1969	熊本県立熊本高等学校卒業
	1973	熊本大学工学部建築学科卒業
	1975	熊本大学大学院工学研究科修了建築学専攻（大学院修士課程）
	1975-85	都市問題経営研究所（大阪）勤務
	1986-94	高木富士川計画事務所代表取締役。同時に古町研究会を立ち上げる。
	1994～	人間都市研究所代表取締役 資格 一級建築士・技術士、認定都市プランナー

略歴

熊本市生まれの富士川氏は、熊本大学在学中、熊本に都市計画の専門事務所がないという危機感から、当時わが国唯一の大阪の再開発コンサルタント専門事務所で10年間の修行期間を経て、35歳の時に郷里熊本で都市計画コンサルタント事務所を創設した。

主な活動履歴と業績

1986－1997 年。

- 1) 事務所設立当初から、「古町研究会」を立ち上げ、熊本のまちづくりについて月例研究会を運営した。
- 2) 古町地区の歴史的建築について、建築学会、行政を巻き込んだシンポジウム、見学会を開催し、郷土熊本の未来のためには歴史的文化遺産が不可欠であることを広く世論に訴えた。
- 3) 食糧会館（明治41年）、長六橋（昭和2年、鉄骨アーチ橋）等の保存運動の実践。

1997－2016 年。

- 1) **旧第一銀行熊本支店社屋を保存活用**する企業を探し、PSオランジュリとして再生を果たす。
- 2) 「古町研究会」を「熊本まちなみトラスト」と改称し、会を再編して組織強化した。
- 3) 月星化成熊本工場（明治29年）、**上熊本駅舎（昭和2年、現上熊本電停）**など、新町古町のみならず熊本市全体の歴史的建築の保存に奔走し、また新町古町の町屋調査とリノベーション再生も行なった。

2016 年～現在。

- 1) 熊本地震により被災した建築文化遺産の救出に、日本イコモス国内委員会との連携協力した活動。
- 2) ニューヨークに本部をもつ**ワールド・モニュメント財団からの国際的支援**を取りつけ、清永本店、PSオランジュリ、の保存修理に貢献した。
- 3)、「被災文化遺産所有者等連絡協議会」を立ち上げ、建築保存の**特例的補助制度の創設**を実現した。
- 4) 熊本まちなみトラストをNPO法人として、発足させた。
- 5) **旧住友銀行熊本支店（昭和9年、古町）の保存。**

特筆すべき業績

本業の都市計画事務所としての業績においては、県産材活用の賞（波野神楽宛）や都市景観賞（銀杏通り環境整備）、中心市街地活性化に対する功労賞（久留米商工会議所）、都市再開発「高山賞」を受ける。

社会貢献活動としての功績は、第一には**近代化遺産の顕彰と保存活用の活動**、第二に、熊本における**まちづくり活動におけるパイオニアの役割**を果たしてきたことである。その実績が内閣府の目に止まり、平成18（2006）年7月には**首相官邸で事例報告**を行なった。

富士川氏が中心となって保存した古町の建築遺産の例



旧住友銀行熊本支店



旧第一銀行熊本支店



清永本店（現在は保存修復中）